

科目名	心理学						
科目名(英)	Psychology						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	井上 慎司		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	心理学の歴史、心理学の研究法、感覚と知覚、記憶、知能、学習、感情の定義と分類について学習する。また、性格とパーソナリティ、発達、発達段階の定義と分類、ストレス、精神疾患、心の悩み、それぞれの心理療法の間観を学ぶことで、対人援助とは何か、医療従事者の心理、患者の心理について学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				記憶と学習のプロセスを説明することができる。-	
	○	○				人がどのようにして動機づけられるのか、そのプロセスを説明することができる。	
	○	○				人の心の動きに影響する対人的・社会的状況を説明することができる。	
	○	○				人の心の発達過程とその特徴、エリクソンの人間発達を用いて説明することができる。	
	○	○				治療過程における患者と治療者の心の動きの特徴を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:『心理学【カレッジ版】』 山村豊・高橋一公 医学書院 参考図書:『リエゾン・カンファレンス—リハビリテーション医療における心理的ケア』 乾吉佑 慶應義塾大学出版会『医療心理学実践の手引き—出会いと心理臨床』 乾吉佑 金剛出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	心理学:心とは何か、対人援助と心理学、心理学の歴史、心理学の研究法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	感覚と知覚:感覚、知覚とは、感覚の仕組みと働き、知覚の仕組みと働き			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	記憶:記憶のメカニズム、短期記憶と作業記憶、長期記憶と忘却			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	思考と知能:思考とは、言語とコミュニケーション、知能とは			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	学習:学習、古典的条件づけ、オペラント条件づけと学習理論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	動機づけ:感情とは、感情のメカニズム、動機づけの理論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	性格:性格とは、性格の理論、性格の測定			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	社会と集団:社会的認知、対人関係と対人魅力、集団とリーダーシップ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	発達1:発達とは、各発達段階の捉え方、乳幼児期、児童期			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	発達2:青年期、成人期、アイデンティティ、中年期、高齢期			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	心理臨床1:心理臨床と臨床心理学、心の適応と不適応、精神疾患の分類			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	心理臨床2:心理療法とカウンセリング、各心理療法の基本的な想定			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	医療と心理1:医療職と対人援助、対人援助の機能			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	医療と心理2:患者の心理特性、医療従事者の心理			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意	国家試験の過去問に目を通し、どの程度の心理学知識が求められるのかをひとまず理解したうえで、医療従事者として、さらなる心理学的な理解を深めることが望ましい。						

科目名	生命倫理学						
科目名(英)	Bioethics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	寺田 篤史		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	脳死・臓器移植や安楽死・尊厳死、人工妊娠中絶や生殖補助医療など、医療における倫理上の問題を引き起こす様々な事例において、どのような議論が行われているかを検討する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					上記のような問題提起に対し、自己決定の尊重、生命の尊厳人権といった倫理的な価値やそれらに関する様々な考え方を理解する。	
	○					こうした問題の検討を通じて自身の拠って立つ 価値観を探りつつ自らの意見を獲得する。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:波多江伸子、寺田篤史、脇崇晴『考えよう！生と死のこと—基礎から学ぶ生命倫理と死生学』木犀舎、2016 参考図書:適宜プリントを配布する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	生命倫理・倫理学とは何か				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	医療は何のためにあるのか—自己決定の尊重とパターンリズム				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	生命倫理・倫理学とは何か				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	無駄な延命治療は中止すべきか—尊厳死の問題				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	死を選択する権利を認めるべきか—安楽死の問題				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	よい死とは何か—緩和ケアと安楽死・尊厳死				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	2.「いのちの始まり」の倫理学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	子供を作る選択肢は多い方がよいか—精子・卵子・胚の提供と代理出産				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	産まれる子を選ぶ権利を認めるべきか—出生前診断と選択的中絶				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	したい人がいるなら何でも認めるべきか—着床前診断・遺伝子治療・エンハンズメント				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	3.「いのちのひろがり」の倫理学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	なぜ脳死者の臓器を利用してよいのか—臓器摘出の条件(オプトインとオプトアウト)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	臓器提供は無償でないといけないのか—提供への対価の是非				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	授業全体の振り返り				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
15	レポート作成						
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		◎				40%
	レポート	◎	○				60%
履修上の注意	この授業では、倫理学上の問題について学生自身が考えることを目的とします。そのため、授業への主体的な参加が求められます。考えを深めるためにペアやグループで意見交換する時間を多く設ける予定です。講義パートも対話的に進行します。非常に素朴なものから社会制度に関わるものまで様々な問いを投げかけるので、積極的にリアクションしてください。また、学生の興味に応じて、授業中に扱う問題を前後させたり、内容を変更することがあります。						

科目名	情報処理						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	谷口 久美子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を学習し、情報を正確に加工・編集できる技術を習得する。レポート・発表会資料等の作成時に適切な文書作成、図表・グラフの活用ができるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			キーボード入力が正確でスピーディに行えるようになる。	
	○	○	○			Wordを使用してレポートや論文が作成できるようになる。	
	○	○	○			Excelを使用して表計算機能ができるようになる。	
	○	○	○			PowerPointを使用してスライド・資料作成ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:300時間アカデミック 情報リテラシー office2016 実教出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Word 文書作成 (ワードの基本操作)				入力練習・復習	
	2	ビジネス文書作成 (社内・社外文書)				入力練習・復習	
	3	図表の扱い (ポスター・計画表作成)				入力練習・復習	
	4	編集操作 (演習問題)				入力練習・復習	
	5	ファイル管理 (ファイルの種類・ファイルの整理)				入力練習・復習	
	6	Power Point プレゼン資料作成 (パワーポイント基本操作)				入力練習・復習	
	7	スライド作成ポイント (表現技法)				入力練習・復習	
	8	発表用スライド作成				入力練習・復習	
	9	Excel 表作成 (エクセルの基本操作)				入力練習・復習	
	10	表の新規作成・編集操作				入力練習・復習	
	11	計算式 (演算子・基本的な関数)				入力練習・復習	
	12	計算式 (応用的な関数)				入力練習・復習	
	13	グラフ作成・データベース機能				入力練習・復習	
	14	スケジュール表作成 (日付関数の利用)				入力練習・復習	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記/実技)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記/実技)	○	○	◎	○		70%
	小テスト	○	○	◎	○		20%
	レポート	○	○	◎	○		10%
履修上の注意							

科目名	医学英語						
科目名(英)	Medical English						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	片岡 彩子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	英文読解に慣れるとともに、最新の医学情報に触れることで、医学への興味を高める。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				英文の構造を理解し、内容を理解することができる	
	○	○				医療関連の基本語彙を理解することができる	
	○	○				トピックについて、自分の考えを述べるができる	
テキスト・教材 参考図書	使用しない。毎回、英文を配布します。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1. Learn another language to delay three dementias (1)			英単語を調べておくこと		
	2	1. Learn another language to delay three dementias (2)			英単語を調べておくこと		
	3	2. Paralyzed man uses mind control to walk again (1)			英単語を調べておくこと		
	4	2. Paralyzed man uses mind control to walk again (2)			英単語を調べておくこと		
	5	2. Paralyzed man uses mind control to walk again (3)			英単語を調べておくこと		
	6	3. World's first baby born with new "3 parent" technique (1)			英単語を調べておくこと		
	7	3. World's first baby born with new "3 parent" technique (2)			英単語を調べておくこと		
	8	3. World's first baby born with new "3 parent" technique (3)			英単語を調べておくこと		
	9	4. Parkinson's disease may start in the gut and travel to the brain (1)			英単語を調べておくこと		
	10	4. Parkinson's disease may start in the gut and travel to the brain (2)			英単語を調べておくこと		
	11	5. The world needs to talk about child euthanasia (1)			英単語を調べておくこと		
	12	5. The world needs to talk about child euthanasia (2)			英単語を調べておくこと		
	13	5. The world needs to talk about child euthanasia (3)			英単語を調べておくこと		
	14	5. The world needs to talk about child euthanasia (4)			英単語を調べておくこと		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	毎回、必ず予習をしてきてください。						

科目名	接遇講座						
科目名(英)	Skills for the Hospitality						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	本田 恵子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	医療従事者としての接遇の心構えとコミュニケーションについてを学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				日常生活上での正しい言葉遣いと社会人としての立ち振る舞いを学び、まずは挨拶や号令の際など、学校生活の中で実践することが出来る。	
	○	○				チームワークやコミュニケーション能力の向上について学び、グループワークなどで活かせる。	
	○			○		電話対応・名刺の扱い方・手紙の書き方を改めて学び、臨床現場への訪問連絡やお礼状などを郵送する際に活用することが出来る。	
	○	○		○		グループ等での演習を通して、自己の人と関わる際の特性を知り、好感を持たれる人との接し方が出来るようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:ケア・コミュニケーション(ウィネット) 参考文献:ビジネスマナー						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己紹介(グループからスピーチ)				自己紹介のスピーチ準備	
	2	自己紹介(グループからスピーチ)				自己紹介のスピーチ準備	
	3	接遇とは・コミュニケーションとは				教科書にて予習	
	4	交流分析(自己の特性を知る)				教科書にて復習	
	5	2-1 好感・信頼感を高めるコミュニケーション 1				教科書にて予習	
	6	2-1 好感・信頼感を高めるコミュニケーション 1				教科書にて復習	
	7	2-3 敬意を伝えるコミュニケーション				教科書にて予習	
	8	2-3 敬意を伝えるコミュニケーション				教科書にて復習	
	9	2-2 好感・信頼感を高めるコミュニケーション 2				教科書にて復習	
	10	4-1 チームワークとコミュニケーション				教科書にて予習	
	11	4-2 建設的でさわやかに対話する				教科書にて予習	
	12	電話対応・名刺の扱い方・手紙の書き方				教科書にて予習	
	13	電話対応・名刺の扱い方・手紙の書き方				教科書にて復習	
	14	電話対応・名刺の扱い方・手紙の書き方				教科書にて復習	
15	まとめ						
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	宿題・レポート	◎	○		◎		20%
履修上の注意	授業内容の順番を変更する場合あり。						

科目名	解剖学						
科目名(英)	Anatomy						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	小川 皓一		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	解剖学の学習に必要な用語を学ぶ。人体を構成する細胞・組織の構造と機能を理解する。運動器系(骨格、関節・靭帯、筋)の構造を理解する。循環器系の構造を理解する。内臓(呼吸器系、消化器系)の構造・機能を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					骨・関節・靭帯に関する構造、部位の名称、特徴を理解できる。	
	○					骨格筋の構造、頭部・顔面・体幹・上肢・下肢の位置や名称を理解できる。	
	○					循環器系における必要知識を理解できる。	
	○					呼吸器・消化器系における必要知識を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1. PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁 監修 廣川書店 2. あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫 訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献:1. ネット解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和 訳 南江堂 2. 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助 原著 南山堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	解剖学概論:人体の構成、解剖学用語、細胞の構造と機能			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	組織学総論①:上皮組織、支持組織(結合組織) 組織学総論②:支持組織(軟骨・骨・血液)、筋組織			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	組織学総論③:神経組織、骨格系①:総論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	骨格系②:頭蓋骨、脊柱 骨格系③:胸郭、上肢帯の骨			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	骨格系③:胸郭、上肢帯の骨 骨格系⑤:自由下肢の骨			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	関節と靭帯①:総論、頭蓋骨の連結 関節と靭帯②:脊柱の連結、胸郭の連結			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	関節と靭帯③:上肢帯・自由上肢の連結 関節と靭帯④:下肢帯・自由下肢の連結			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	筋系①:総論、頭部・顔面の筋 筋系②:舌・口蓋・咽頭・喉頭の筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	筋系③:背部の筋 筋系④:体幹の筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	筋系⑤:上肢の筋 筋系⑥:下肢の筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	循環器系①:血管の構造、心臓 循環器系②:動脈系			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	循環器系③:静脈系 循環器系④:胎生期の循環、リンパ系			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	呼吸器系:鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、胸 消化器系①:消化管の一般構造、口腔、食道			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	消化器系②:胃、小腸、大腸 消化器系③:肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎				100%
履修上の注意							

科目名	生理学						
科目名(英)	Physiology						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	坂口 博信		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	人体についての基礎知識は医療に携わるひとには欠かせない。生理学は、人体の生命現象の仕組み(機能)を理解するための学問であり、医学の中で、最初に学ばねばならない基礎中の基礎となる科目である。本講義では、人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる	
	○	○				人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:カラー図解 新しい人体の教科書 上・下巻 講談社 ブルーボックス						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	生理学序論、細胞と内部環境			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	神経系 興奮伝導、シナプス、神経回路			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	末梢神経系 脳神経、脊髄神経、自律神経			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	血液、酸-塩基平衡			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	生体防御 一免疫一			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	循環			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	呼吸			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	消化と吸収			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	栄養と代謝			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	腎臓と排泄			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	内分泌			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	性と生殖			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	筋の収縮1 骨格筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	筋の収縮2 心筋・平滑筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	病理学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	自見 至郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きを基礎を習得した上に位置する病理学は、病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようにすることを最終目標とする。細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになることを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きを基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
	○					様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
	○					細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院 系統看護学講座 病理学(疾病の成り立ちと回復の促進1)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	細胞・組織・器官			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	病理学概論(病因と組織変化)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	内因と外因・病気の分類			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	先天異常、遺伝子・染色体異常			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	代謝障害と細胞および組織変化(変性と壊死)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	脂質、タンパク質代謝障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	タンパク質代謝における肝臓と腎臓の役割			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	ビリルビン代謝障害、循環障害1(充血、うっ血、貧血、虚血)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	循環障害2(血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	炎症、免疫			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	アレルギー			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	免疫不全、移植			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	腫瘍1			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	腫瘍2			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							



科目名	リハビリテーション概論						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	真子 はるみ・安野 敦子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	リハビリテーションの概略を理解し、OTとしての関わりの範囲や内容等について知る。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				リハビリテーションの理念、歴史について説明できる	
	○	○				リハビリテーションの分野、領域について説明できる	
	○	○				国際障害分類と国際生活機能分類について説明できる	
	○	○				各専門職と役割、チームアプローチについて説明できる	
	○	○				リハビリテーションの流れについて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 一要点整理と用語解説(診断と治療社) 参考図書:上好 昭孝、土肥 信之 著 医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハビリテーションの定義			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	リハビリテーションの分野			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	廃用症候群			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	国際障害分類と国際生活機能分類			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	リハビリテーションの職種			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	評価とリハビリテーションの流れ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	リハビリテーションの流れ、EBM、地域リハビリテーション			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	補装具			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	関係法規			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	疾患別リハビリテーション 脳血管障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	疾患別リハビリテーション 神経・筋疾患			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	疾患別リハビリテーション 関節リウマチ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	疾患別リハビリテーション 脊髄損傷			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	疾患別リハビリテーション 脳性まひ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	作業療法概論						
科目名(英)	Introduction to Occupational therapy						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	竹中 祐二		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	重症心身障害児施設において 作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	作業療法を概観し、その理念、定義、歴史、具体的実践を学び、医療福祉の中での作業療法の位置付けを知る。 具体的実践の内容に関してはOT学科教員のオムニバス方式で実施する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法の理念、歴史について説明できる	
	○	○				作業療法士が関わる領域や時期について説明できる	
	○	○				主な作業療法の領域における専門性について説明できる	
	○	○				作業療法士に求められる資質や適性について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:二木淑子、能登真一編:標準作業療法学 作業療法概論. 第3版 医学書院 参考文献:長崎重信編:作業療法学ゴールドマスターテキスト, 作業療法概論. 改訂第2版, メジカルビュー社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	作業療法とは			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	作業療法の歴史			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	作業療法の歴史			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	評価学			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	人間発達学			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	発達障害の作業療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	地域作業療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	身体障害の作業療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	補装具、リハ関連機器			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	基礎作業学			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	日常生活活動			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	高次脳障害の作業療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	老年年期障害の作業療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	精神障害の作業療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎					20%
履修上の注意	授業内容の順番は変更する場合あり。施設見学(昼間半日)を1-2回ほど予定。						

科目名	職業関連活動						
科目名(英)	Pre-Vocational Occupational Therapy						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	渡辺みゆき		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	障害の有無は関係なく、職業・働くことの意味について考えながら、現在の日本での障害雇用や就労形態、それを支える法制度や支援について学ぶ。また、現在のOTが抱える課題や対応について考え、働くこと・就労支援についての理解を深める。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人にとつての働くことの意味・障害のある人にとつての職業の意義を理解し、それぞれについて自分の観点から説明することが出来る。	
	○	○				職業リハビリテーションの定義、法制度、援助機関について主となるものを説明することが出来る。	
	○	○				障害者雇用の現状、就労形態、各種の援助サービスについて各3つずつは説明することが出来る。	
	○	○				OTの就労支援の現状を知り、今後の課題について具体的に最低3つはあげる事が出来る。	
○	○		○			障害者の就労支援について関心を持ち、自ら調べ・発表に活かすことが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	1. 福岡県社会福祉協議会 編:福岡県障害者福祉情報ハンドブック2018. 2. 日本作業療法士協会 編:作業療法マニュアル60 知的障害は発達障害のある人への就労支援,2016. 3. 配付資料 参考文献:・日本作業療法士協会 編:職業関連活動(作業療法学全書第12巻)改訂第3版. 協同医学出版社,2009. その他の参考となる文献および情報源は授業で紹介する。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、職業について考える				職業について事前に考えてくる	
	2	働くことの意味について考える				働くことの意味について自分なりの意見を考えてくる	
	3	職業の定義、意義、分類、職業選択、職業的発達				教科書にて事前学習する	
	4	職業適性検査 ①職業興味検査 ②厚労省編職業適性検査				検査の概要について調べてくる	
	5	職業適性検査結果のまとめ、職業適性				検査を実施してのまとめを行う	
	6	障害者の定義、業の意義、就労形態				障がい者の就労について事前学習を行う	
	7	障害者雇用の現状、職業リハビリテーションの歴史・定義				知っている障がい者雇用施設について調べてくる	
	8	職業リハビリテーションの援助機関、各種援助、制度、職業生活継続の重要性				リハビリテーションとしての援助や制度について予習する	
	9	職業リハビリテーションとOT:OTの役割、目的、就労とリハゴール、評価①				Oとしての就労支援について考えてくる	
	10	就労支援の実際(1)福祉的就労施設における就労支援				福祉的就労支援について予習をしてくる	
	11	就労支援の実際(2)発達障害分野における就労支援				発達障害分野における就労支援について予習する	
	12	就労支援の実際(3)精神障害分野における就労支援				精神障害分野の就労支援について予習する	
	13	就労支援の実際(4)身体障害分野における就労支援、職リハとOT:評価②				身体障害分野の就労支援について予習する	
	14	課題発表、まとめ				課題発表の準備を行う	
15	まとめ						
評価方法	(1)発表・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					80%
	レポート	○					10%
	発表	○			○		10%
履修上の注意	講義は配付資料を基に進めます。その他、グループワーク、映像による紹介なども取り入れます。個人学習としてのレポート課題を課します。(授業開始時に説明します)						